

米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く (183)

古文書からみる醒井宿

「江龍典礼家文書」の整理成果から

江戸時代の街道と宿場

江戸時代は、幕府によって五街道をはじめとする日本国内の街道そして海路が整備され、交通環境が整った時代です。各街道には宿場が設けられ、その宿場には幕府の公用荷物の輸送を担う人足や伝馬が置かれます。また、街道が整備されたことで通行量が増加し、全国から江戸などの大都市に向けて米や名産品が運ばれるようになりました。各地の宿場では人と物が行き交い、旅人を相手とする商売も起こり、活気が生まれました。中山道に属する醒井宿もそのような宿場の一つです。今回は、古文書から江戸時代初期の醒井宿の様子を見ていきます。

「江龍典礼家文書」からみる醒井宿

「江龍典礼家文書」は、醒井で宿場役人や村の庄屋などを務めた「江龍典礼家」に伝わった古文書群です。醒井自治会が取得され、教育委員会で資料の整理を進めてきました。資料点数は1693点を数え、江戸時代初期から明治時代にかけての醒井の様子が分かる古文書が数多く含まれています。

さて、江戸時代の主要な街道では、幕府や大名の交通を支えるため、各宿場に人足と伝馬を常備することが定められていました。醒井宿が属する中山道では、50人の人足と50疋の伝馬を常備することとなり、寛永10年(1633年)ごろには、幕府から各宿場に対して助成金の支給が始まります。「江龍典礼家文書」には、この時に醒井宿に対して、年間で米六石余りの支給を決めた古文書が残されています。この古文書は、幕府勘定奉行所の役人から小堀政一(小堀遠州)に宛てられた通知文で、幕府役人の印鑑が押されており、江戸時代初期の交通政策が分かる貴重な資料です。

「醒井宿人別帳」からは、延宝5年(1677年)の段階での醒井宿の人口と住民の生業が分かります。当時の人口は673人あり、うち男性が357人、女性が316人いました。また、生業としては、問屋12人、馬指(伝馬差配役)2人、「ありき」(人足差配役)2人、「かうさくかせき」(農業)80人、「山かせき」(山での伐採など)13人、「あき人」(商

人)19人、駕籠かき12人、桶大工4人、茶屋7人、紺屋(染物屋)3人、表具屋・干物屋・唐笠張りが各1人、獵師2人、「二銭そり」(髪結い)2人、僧侶3人など、商人・職人がおり、なかでも駕籠かきや茶屋といった宿場ならではの生業が見られ、旅人を相手に商売をしていたと思われます。

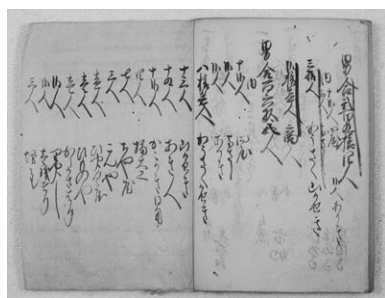
今回取り上げた古文書を含む「江龍典礼家文書」を、醒井宿資料館で11月から展示します。ぜひ、古文書から、江戸時代の醒井宿の様子に思いを馳せてみてください。

(生涯学習課文化財保存活用推進室)



◀生業の様子が分かる「醒井宿人別帳」

小堀政一に宛てられた幕府からの支給米を記した通知文▶



消費生活相談コーナー

害虫駆除サービスのトラブルにご注意ください

ネットで見つけた安価な業者に蜂の駆除を頼んだが、請求が想定より高額だった。作業後であったためやむなく支払った。



消費生活相談員より一言

ネットで検索した際の検索上位が優良業者とは限りませんし、記載の金額で依頼できるとも限りません。事前に必ず見積をとって、作業内容や料金などをしっかり確認しましょう。なお、ネットで安価な価格表示だったにも関わらず高額請求された場合、クーリング・オフできる可能性があります。

「おかしいな」と思ったら、一人で悩まず、まずは消費生活相談窓口へご相談ください。

市 消費生活相談窓口(本庁舎)

相談専用 ☎53-5110

(受付) 平日 9時30分～16時

米原警察署情報

📍 米原警察署 ☎52-0110

指名手配犯の発見・逮捕にご協力ください

11月は全国の警察を挙げて指名手配犯の追跡捜査を強化します。指名手配犯の発見・検挙には、皆さまのご協力が欠かせません。「よく似た人を見た」「不審な人がいる」といった情報は、どんな些細なことでも構いませんので、警察に通報していただくようお願いします。



令和7年市内交通事故数(9月末時点)

件数 40件(+1件) 死者1人(±0人)
傷者 51人(-6人) ※()内は前年比